

和歌山だより

令和5年 第180号
(2023)

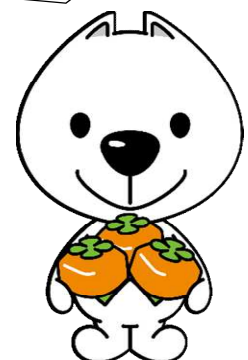


宝泉寺の大銀杏（田辺市）

福定の宝泉寺境内にある大銀杏は、幹の周囲5.3m、高さ22m、推定樹齢400年の大木であり、町天然記念物に指定されています。紅葉の見頃は、11月中旬～11月下旬頃で、黄色の落ち葉で敷き詰められた黄金の絨毯のような境内は見る者の心を和ませてくれます。
(写真提供: 公益社団法人和歌山県観光連盟)

CONTENTS

- 1 知事メッセージ p. 1
- 2 和歌山県政トピックス p. 2 ~ 10
- 3 お知らせ p. 11 ~ 21
- 4 ふるさと歳時記 p. 22 ~ 23



聖地リゾート！和歌山

観光立県和歌山のキャッチフレーズを新たにつくりました。

それが、「聖地リゾート！和歌山」です。

和歌山の観光を売り出すのに大切な三つの「S」。まず、高野山・熊野に代表される「Spirituality（精神性）」。SDGsにもつながる自然の豊かさに象徴される「Sustainability（持続可能性）」。そして、豊かな自然から生み出される上質な「Serenity（静けさ）」です。



和歌山は、古くから神々がいる聖地だけでなく、文化、歴史、温泉、食などの様々な聖地を生み出しました。そして人々を寛容に迎え入れ、訪れた人々の心や体をいやしてくれるリゾートとして親しまれています。

霊場でありながら熊野は女人禁制ではありませんでした。1300年前からジェンダー・フリーです。小栗判官照手姫の物語のように、障がい者が一人でも熊野詣のできるユニバーサル・ツーリズムがありました。熊野はよみがえりの地です。

発酵食品である味噌や醤油、かつお節などの発祥の地でもあります。古事記や日本書紀にも出てくる地名が今でも使われている神代の時代から続く土地柄で、神武天皇を熊野から吉野へ案内したヤタガラスは日本サッカー協会のエンブレムとしてワールドカップの勝利を呼び込んでいます。

「知らないオドロキが色々色々」をコンセプトにビックリマークを付けたロゴも同時に発表しました。

新しいキャッチフレーズの下、国内外から大勢のお客様に来てもらえるように頑張りますので、応援よろしく願いいたします。

和歌山県知事 岸本 周平



10/8 和歌山県人会世界大会
記念式典にて

●「第2回和歌山県人会世界大会」を開催しました！

古くから海外との結びつきが強かった和歌山県は、1880年代以降33,000人を超える移民を世界に輩出してきた移民県として広く知られており、広島、沖縄、熊本、山口、福岡に次いで全国第6位となっています。

この度、在外・国内の和歌山県人会員がふるさと和歌山で一堂に会し、和歌山にルーツを持つ方々の郷土への誇りを高めるとともに、県民との相互交流や移民史に対する県民の理解を深める機会を創出することを目的として、10月5日から8日にかけて、第2回和歌山県人会世界大会を開催しました。

今回は、4年前の第1回大会を上回る、海外8カ国から412名、国内6県人会から55名の県人会員等にお集まりいただきました。

在外和歌山県人会員を歓迎することを目的に、10月5日に行われたオープニングイベント（白浜町）では、地元食材を利用した料理によるおもてなしや、地元の白浜円月太鼓や南紀チアーエンジェルスによるパフォーマンスが披露されました。南紀チアーエンジェルスは日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語で挨拶をしたほか、木曜島和歌山県人会の皆さんも現地の童謡である「^{タバ} ^{ナバ} TABA NABA」に合わせて座って踊るダンスを披露するなど、会場は大変盛り上がりました。



10/5 オープニングイベントの様子



紀の川市コースに参加された皆さん

翌10月6日は、ふるさと巡りツアーを行いました。このツアーでは、県内8コースに分かれ、在外和歌山県人会員の皆さんに、県人会ゆかりの地域を中心として学校訪問や地域住民との交流をしていただきました。

10月7日に実施したわかやまスタディーツアーでは、和歌山の歴史について理解を深めていただき、中南米県人会シンポジウムでは、本県と中南米県人会との次世代交流について意見交換がなされました。

さらに、弁慶まつりに参加して弁慶ゲタ踊りにチャレンジしていただいたほか、合気道の演武見学や体験をしていただきました。



弁慶ゲタ踊りの様子

そして、最終日となる 10 月 8 日の記念式典では、参加県人会の紹介の後、岸本知事より各県人会代表者に記念品（タペストリー）をお贈りし、後出吉之フランクさん（東部カナダ和歌山県人会会長）が県人会代表として挨拶を行いました。そして、ケイティ・カニングハムさん（シアトル紀州クラブ）とリュウジ カミダさん（アルゼンチン和歌山県人会）が「故郷への誇りと自信を深めるため、その



10/8 記念式典における大会宣言の様子



会場一体となった記念式典のフィナーレ

つなかりを将来にわたって育んでいくことをここに宣言します」と大会宣言を行いました。

その後の記念コンサートでは、由良町出身のシンガーソングライター^{やぶしたまさと}藪下将人さんと和歌山市出身の singer SAYAKA さんが、「おどるんや～紀州よさこい祭り～」との

コラボレーションを披露し、会場全体が一つになり、大いに盛り上がりました。続いて、会場を移して行われた歓迎レセプションでは、各県人会長、来賓の方々による鏡開きを行い、参加された方々に御歓談いただく中、ブラジル和歌山県人会のメリッサ谷口さんによる「ふるさと」、ペルー和歌山県人会のエミー・イワヤさんによる「Hoy（今日）」の独唱、南加和歌山県人会の皆さんによる「We Will Rock You」に合わせたフラッシュモブ、メキシコ和歌山県人会の皆さんによる「シェリト・リンド」の合唱など、海外県人会の皆さんによるパフォーマンスが披露され、会場は熱気に包まれました。



メキシコ和歌山県人会のパフォーマンス



鏡開きの様子

国内県人会の皆さんとの交流を深めることにつながればと願っています。

皆さんがふるさと和歌山を想う時、県民歌の一節「ふるさとはつねに微笑む」のとおり、いつまでも和歌山が元気であり続けられるよう、私たちも精いっぱい頑張っていかなければならないと決意を新たにしました。県人会の皆さんにとっても、この機会が今後の活動の活性化や他の海外、

●「第9回アジア・オセアニア高校生フォーラム」を開催しました！

県では、県内外の高校生とアジア・オセアニアの国や地域の高校生が、世界共通の様々な課題について意見を交わすことで、広い視野で物事を捉える力と、様々な国や地域の人達とコミュニケーションを図る力を養い、国際社会で活躍できるリーダーを育成することを目的として、「アジア・オセアニア高校生フォーラム」を2015年度から毎年開催しています。

全プログラムを英語で行う本フォーラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年以降Web形式で開催していましたが、今回は実に4年ぶりとなる対面形式かつ海外参加者との英語合宿形式での開催が実現しました。



世界遺産(高野山)研修ツアーの様子

7月29日から8月2日の日程で行われた今年度のフォーラムには、国内外合わせて34校46名の生徒と、全体会・分科会を合わせて延べ約500名の聴講者の方々に御参加いただきました。

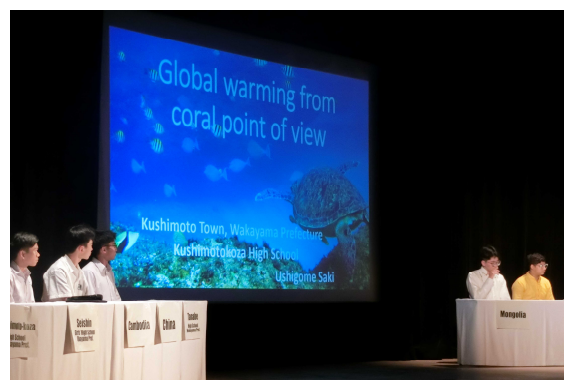
初日は、海外参加者を対象とした和歌山県スタディーツアーを、2日目は和歌山県世界遺産(高野山)研修ツアー及び参加者交流会を行いました。3日目の開会式では、日高高校とインドネシアから参加の高校生が開会宣言を行いました。4日目の分科会では、「津波・防災対策」「環境問題」「ダイバーシティ問題」「教育問題」「食糧問題」のテーマに分かれ、お互いの理解を深めました。

そして、最終日の全体会では分科会の意見をとりまとめたプレゼンテーションが行われ、それぞれの課題解決に向けた積極的な意見交換がなされました。その後の歓迎レセプションでは、皆さん一転とてもリラックスした表情となり参加者同士がさらに交流を深めました。

参加した生徒からは、「自分はまだまだ世界で起きていることを全く知らないと思い知らされた。これからは世界で起きている問題に目を向け、情報に敏感になり、より一層英語力を磨こうと思った」「英語ができたとしても、それを使って自分から話しかけにいたり、話題を作ったりすることがとても大切だと、このフォーラムで学び、実践することができた」などの感想が聞かれました。参加者の皆さんにとって、様々な交流を通じて国内外に友人ができるとともに、世界がどうすればより良くなるかを考える大変有意義なフォーラムとなりました。



開会宣言の様子



全体会の様子

●ベトナム ダナン・ハノイ・フーイエン省を訪問しました

岸本知事は、7月26日から30日の日程でベトナムを訪問しました。

すさみ物産訪問

■日 時：7月26日（水）16時00分～16時30分

■場 所：すさみ物産

37年前にダナンに進出した「すさみ物産」を花尻貴之社長に御案内いただきながら視察しました。

江戸時代から続く焙煎方法「手火山式」によりかつお節を製造している現場を視察するとともに、人材の確保状況等について意見交換を行いました。



視察の様子

レ・チュン・チン ダナン人民委員長との意見交換

青少年交流団激励

■日 時：7月26日（水）17時00分～18時15分

■場 所：ダナン人民委員会 他

ダナン人民委員会のレ・チュン・チン委員長を表敬訪問し、観光、人材育成などの分野で和歌山県とダナン市との友好関係を推進することで合意しました。



(左)表敬訪問の様子／(右)県内高校生への激励の様子

その後、外務省が推進する日中植林・植樹国際連帯事業でベトナムを訪れている県内高校生を濱口太史県議会議長とともに激励しました。

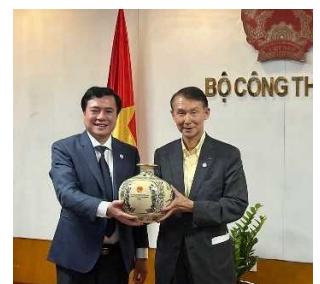
グエン・シン・ニャット・タン商工省副大臣との意見交換

■日 時：7月27日（木）13時30分～14時15分

■場 所：商工省

ベトナム商工省のタン副大臣を表敬訪問しました。県と商工省とは2018年に貿易と産業振興に関する覚書を締結し、2021年に更新しています。

今後も同覚書に基づき、お互いの協力関係を強くすることを確認しました。



タン副大臣と知事

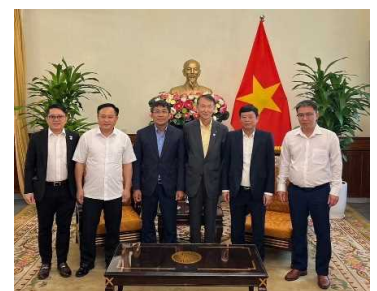
グエン・ミン・ヴー外務省副大臣との意見交換

■日 時：7月27日（木）14時45分～15時45分

■場 所：外務省

ヴー外務副大臣を表敬訪問するとともに、同席された地方政府のランソン省、ソンラ省、バクニン省の代表と協力関係構築のための意見交換を実施しました。

各省はハイテク産業や、農業、エネルギーなどそれぞれに特色のある地域であり、互いにどのような交流ができるか、話し合いを進めていくことで合意しました。



ヴー外務副大臣らと知事

ドアン・バン・ベト文化スポーツ観光省副大臣との覚書締結

■日 時：7月27日（木）16時15分～17時15分

■場 所：文化スポーツ観光省

ベトナム文化・スポーツ・観光省と和歌山県の間で、文化・青少年交流の促進と観光プロモーション活動の相互支援を中心とした「文化及び観光に関する覚書」を締結しました。

この覚書に基づく具体的な協力事項として、今回の知事及び県議会議長の訪越にあわせて、和歌山県及びベトナムの高校生の相互訪問を実施できたことに感謝の意を述べるとともに、同省が和歌山県内で観光プロモーションする際には、できる限りの支援をすることで合意しました。



覚書締結の様子

和歌山県ジョブフェア 2023 への参加

■日 時：7月27日（木）18時00分～19時00分

■場 所：ホテルデュパルクハノイ

ハノイで開催した「和歌山県ジョブフェア 2023」のレセプションに参加しました。

挨拶では和歌山県の企業とベトナム側の大学や送り出し機関と外国人労働者の人権を守り、労働条件の改善を実施していくことについて述べ、その後、意見交換を行いました。



関係者の皆さんと知事

トーン・ハイ・ナム労働・傷病兵・社会問題省海外労働管理局長との覚書締結

■日 時：7月28日（金）9時00分～10時00分

■場 所：労働・傷病兵・社会問題省

ベトナム労働・傷病兵・社会問題省海外労働管理局と和歌山県の間で、グエン・バー・ホアン副大臣及び濱口県議会議長立会いのもと、「ベトナムから和歌山県への人材の送出し・受入れに係る覚書」を締結しました。

和歌山県はベトナム人労働者の安全で安心な生活、就労環境を整え、日本語教育のサポートをすることで合意。ベトナム人労働者の人権を守り、完全に対等な仲間として、受入れていくこと等について意見交換を行いました。



覚書締結の様子

グエン・クオク・チー 農業農村開発省副大臣との意見交換

■日 時：7月28日（金）10時45分～11時30分

■場 所：農業農村開発省

農業農村開発省のチー副大臣を表敬訪問しました。2021年から和歌山県産みかんの輸出が解禁し、2トンからスタートした輸出が、昨年は約20トンになったことなどについて意見交換を行いました。また、2015年に締結した相互協力の覚書の内容について、深化させていくことを確認しました。



チー副大臣と知事

和歌山信愛大学とフーイエン大学とのオンライン日本語教室開講式

■日 時：7月28日（金）16時30分～17時30分

■場 所：文化スポーツ観光省

和歌山信愛大学とフーイエン大学間の覚書による「オンライン日本語教室」開講式が、フーイエン省の各大学関係者、学生に加えて人民委員会からも参加のもと、盛大に行われました。



開講式の様子

当日は、和歌山信愛大学の辻伸幸^{つじのぶゆき}教授による「日本語での挨拶について」の授業が行われました。

ファム・ダイ・ズオン フーイエン省党委員会書記長との意見交換

■日 時：7月28日（金）17時45分～18時30分

■場 所：フーイエン省人民委員会

和歌山県とフーイエン省の間で人材交流を進めるための会議を開き、岸本知事及びズオン書記長立ち会いの元、労働関係部局間同士で人材の派遣、受入について議事録を交換しました。



ズオン委員長と意見交換を行いました

今年3月に本県を訪問された同省人民委員会のズオン委員長との再会を果たし、観光、農業、水産業の分野でも、協力関係構築のため交流を進めることで合意しました。

フーイエン省企業関係者との意見交換会

■日 時：7月29日（土）10時30分～12時00分

■場 所：サオマイビーチリゾート

フーイエン省のビジネスミーティングに参加し、観光業、農業、水産業をはじめ民間企業との意見交換を行いました。

参加者からは、県内企業の投資や技術移転等について、熱い期待が寄せられました。



フーイエン省企業関係者と意見交換を行いました

●「第11回きのくにジュニア科学オリンピック」決勝大会を開催しました

県教育委員会では、科学に関心のある中学生が切磋琢磨する場を設け、科学や理数系分野への学習意欲の一層の向上を図り、科学技術の発展を担う人材の育成を目的として、「きのくにジュニア科学オリンピック」を開催しています。

9月3日に「第11回きのくにジュニア科学オリンピック」決勝大会を開催

し、先の予選会を勝ち上がった5校10チームの中学生の皆さんが、ものづくりの能力、コミュニケーション能力等を用いて課題解決能力を競う実技競技に臨みました。皆さん知識や仲間とのチームワークを駆使して、真剣な表情で課題に取り組んでいました。



チームで課題解決に取り組みました

なお、見事優勝を果たした「Ume こん部」（開智中学校）の皆さんは、和歌山県代表として12月8日～10日にアクリエひめじ（兵庫県姫路市）で開催される「第11回科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場します。

全国大会での御活躍を期待しています。

■第11回きのくにジュニア科学オリンピック 大会結果

順位	チーム名	学校名
第1位	Ume こん部	開智中学校
第2位	ベンゼン環	智辯学園和歌山中学校
第3位	桐蔭CZ	桐蔭中学校

● 「宇宙シンポジウム in 串本」を開催しました

2024 年度に県立串本古座高等学校の普通科が「未来創造学科」に改編され、「宇宙探究コース」のほか2コースが設置されます。宇宙探究コースでは、宇宙に関する科目を開設し、大学や研究機関、宇宙産業関連企業等と連携した探究的な学びを行います。



パネルディスカッションの様子

今年で5回目となる「宇宙シンポジウム in 串本」は、来年度の宇宙探究コース開設を見据え、「宇宙教育」をテーマに実施しました。

本シンポジウムでは、民間で世界初となる月面着陸に挑戦した株式会社 ispace 代表取締役 CEO&Founder はかまだたけし 袴田 武史さん、宇宙ビジネスを手掛ける Space BD 株式会社代表取締役社長 ながさきまさとし 永崎 将利さん、世界初のカーボンニュートラルスペースポートの実現に取り組むスペースワン株式会社取締役 えんどうまもる 遠藤 守さんをはじめ、日本を代表する宇宙関係者の皆さんに講演やパネルディスカッション



県立串本古座高等学校生徒による発表の様子

を行っていただきました。そして、県立串本古座高等学校の生徒の皆さんには、シンポジウムの受付や司会などの運営に携わっていただくとともに、同高校の CGS 部の皆さんには、ロケット班、調理班、保育班の活動について発表してもらいました。

シンポジウムに参加した同校生徒からは、「制限された中で行動するのではなく、失敗を恐れずに行動することが大切」、「チャレンジするだけではなく、チャレンジする人のサポートもしていきたい」などの感想が聞かれ、大変有意義なシンポジウムとなりました。

ここ和歌山が、宇宙関連企業や高度な技術を持った宇宙・ロケット分野の人材が多く集まる最先端の宇宙ビジネスの拠点となり、更には世界で活躍する人材を数多く輩出できるよう、引き続き全力で取り組んでいきます。

< 「宇宙シンポジウム in 串本」に御登壇等いただいた方々 >

- ・株式会社 ispace 代表取締役 CEO&Founder 袴田 武史 氏
- ・Space BD 株式会社代表取締役社長 永崎 将利 氏
- ・スペースワン株式会社取締役 遠藤 守 氏
- ・東京大学大学院工学系研究科教授 中須賀 真一 氏
- ・JAXA 研究開発部門研究領域主幹 河本 聡美 氏
- ・県立串本古座高等学校の皆さん

●「高野山会議 2023」を開催しました

7月13日～16日の4日間、高野山真言宗総本山金剛峯寺等を舞台に、東京大学先端科学技術研究センター（先端研）が主催で、また、県等も共催の形で「Nature-Centered」の視点から1200年後の未来を語る「高野山会議 2023」を開催しました。高野山会議は、科学・芸術・デザイン・哲学・宗教など様々な分野の人々と地元和歌山の人々が集まって、1200年後の世界を見据え、自然と協調・共存し、よりよい未来のかたちを考え、実践するために設立されたユニークな科学文化学術会議であり、今回で3回目の開催となります。

なお、先端研は2019年3月に本県と、2021年9月に高野町、金剛峯寺、高野山大学と、開催期間中の7月14日に橋本市、かつらぎ町と連携協定を締結し、産業振興や教育等幅広い領域で交流を進めています。



「瞑想：自然と一体化した境地」をテーマとしたセッションには特別ゲストとして知事も登壇しました



高野の地で1200年後の世界について考えました

本会議は、5つのセッションなどで構成され、「和の芸術とデザイン」「インクルーシブデザイン」「次世代育成」「高野山のまちと人」「瞑想：自然と一体化した境地」をテーマに1200年後の世界との関わり等について考えました。

気候変動による地球の不全は、人間中心から自然中心へと考え方を考える必要を私たちに突きつけています。そのような時代の変化の中、未来を担う子供たちには、個性豊かな感性と理性、そして倫理性を育てる必要があります。そこで、高野山大学と先端研が中心となり、県や民間団体も連携して「マンダラプロジェクト～和歌山から未来のかたちを発信する～」を立ち上げました。弘法大師が体得した「自然と一体化した世界観」を瞑想を通じて、私たちも体験できないかというプロジェクトで、メタバースの技術を使って瞑想しやすい環境をつくる挑戦をしています。完成すれば、2025年に開催予定の大阪・関西万博の和歌山ゾーンで披露したいと考えています。

来年、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて20周年を迎えます。みんなが自然とつながり、生命の大切さを感じ、「利他」の心でウェルビーイングな社会を実現できるよう、和歌山・聖地高野山から世界へ発信していきたいと思えます。

●実家と空き家に関する対策について～家族が困らないために～

全国的に空き家が増えており、大きな問題になっています。国の調査によると、和歌山県内の空き家は、2018年時点で9.8万戸とされています。率にすると、20.3%で全国ワースト第2位です。

空き家を放っておくと次のようリスクがあります。

○ご近所トラブルに発展します。

倒壊／不衛生／景観の乱れ／周辺の資産価値の下落／治安悪化

○想像以上に出費がかさみます。

維持管理費／改修費／税負担／劣化が原因による損害賠償

○老朽化が一気に進みます。

カビ・結露の発生／外壁の剥離／雑草の繁茂／害虫・害獣の住処

もし「お家」をお持ちの方で、例えば売りたい、貸したい、解体したほうがいいのかなど、これからどうするか悩んでいらっしゃる場合には、わかやま移住定住支援センター（和歌山窓口・073-422-6150）まで御連絡ください。

また、空き家なんでも相談「TAKUSERU」では、ネットからの相談が可能です。

空き家なんでも相談
和歌山の専門家と行政が連携してお手伝い

(協賛構成団体)
和歌山県空家等対策推進協議会(和歌山県・県内市町村・学識者で組織)／(一社)和歌山県建築士会／和歌山県司法書士会
(公社)和歌山県宅地建物取引業協会／和歌山県生地家屋調査士会／(一社)和歌山県不動産鑑定士協会／(一社)ミチル空間プロジェクト
和歌山弁護士会／和歌山県行政書士会



空き家なんでも相談
「TAKUSERU」QRコード

また、県や市町村などの自治体が空き家の情報登録を受けて、ホームページ等を通じて、空き家の利用希望者に情報提供する空き家バンクの運営も行っています。

2022年度の空き家バンクの登録件数は174件で、過去最高でした。また、利用希望者登録も626件と前年の200件から大きく増加しました。

空き家をお持ちで、空き家バンクに登録したいという方は、空き家の所在する市町村にまずは一度御相談いただければと思います。



わかやま住まいポータルサイト
(空き家バンク) QRコード

●和歌山しごと暮らし体験事業の御紹介

県では、県外にお住まいの移住希望者向けに、移住後の生活をイメージしたり、不安や疑問を解決するため、地域での仕事体験に加え、ゲストハウスなどに宿泊し、地域住民との交流や暮らしを体験してもらう「お試し移住」の機会を提供しています。

農林水産業、飲食業、宿泊業、食品製造・加工業、デザイン業、医療・福祉、サービス業、伝統工芸など様々な業種で170を超える魅力的な体験先があり、ご自身の興味に合わせて体験先を選ぶことができます。また、選べないという方には、事務局より体験先を御提案させていただくこともできます。

体験中はできる限り、体験先の方とのコミュニケーションをとっていただける時間を設けており、理想の暮らしに関するアドバイスをもらえることもあるかと思います。体験を通じて自分らしい働き方や暮らしを見つけるきっかけになるかもしれません。

和歌山への移住を検討するにあたり、「和歌山で何かしてみたいけど、いきなりは不安だなあ…」といったお悩みがある方にもおすすすめです。まずはお気軽に御相談ください。



わかやま LIFE
「しごと・暮らし体験」HP QRコード

■申し込みから体験スタートまでの流れ

STEP 1



申し込み

「わかやまLIFE」に掲載されている体験受入れ事業者のなかから体験希望先を申し込みます。

STEP 2



事前調整

事務局と共に、日程調整や体験内容のすり合わせを行います。宿泊先は事務局で御提案します。

STEP 3



体験スタート

体験先では普段の「しごと」を体験します。地元の方たちとの交流を通じて「暮らし」についても確認します。

●わかやま移住定住支援センターの御案内

県では、移住の相談拠点「わかやま移住定住支援センター」を和歌山市、東京、大阪の3箇所に設置しています。丁寧に寄り添って対応する相談員がいますので、和歌山の移住を検討されている方はお気軽に御相談ください。

メール、電話、オンラインでの相談にも対応可能です。

わかやま移住定住支援センター

「わかやま移住定住支援センター」では、わかやま暮らしを希望する方々に、仕事や生活などの様々な情報をワンストップで提供しています。

東京窓口

東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8階 ふるさと回帰支援センター内
☎ 03-6269-9883 FAX 03-6273-4404
✉ wakayama1@furusatokaiki.net

案内 火曜～日曜（月、祝日定休）
時間 10:00～18:00

※キャリアアドバイザーへのご相談は火曜、金曜、日曜のみです。
※夏季、年末年始に休業期間があります。

"くらし"と"しごと"をセットでご案内します！



移住支援員
いわもと あやの
岩本 彩乃



キャリアアドバイザー
おぐま ゆみこ
小宮 裕美子



キャリアアドバイザー
うちだ やすゆき
内田 靖之

大阪窓口

大阪府大阪市中央区本町橋2-31 シティプラザ大阪1階
大阪ふるさと暮らし情報センター内
☎ 080-9663-5799
✉ wakayama.lifework@tiara.ocn.ne.jp

案内 第1.3.4.5金曜 及び 第2日曜
時間 10:00～18:00

※夏季、年末年始に休業期間があります。

私も移住者です！



キャリアアドバイザー
いしわた さちこ
石渡 祥子

和歌山窓口

和歌山県和歌山市本町1-22
Wajima本町ビル1階
☎ 073-422-6110
FAX 073-422-6150
✉ wakayamagurashi@wsk.or.jp

案内 水曜～月曜（火、祝日定休）
時間 10:00～17:30

※年末年始には休業期間があります。



センター長
なす ひろあき
那須 大朗



移住支援員
きしもと ひろゆき
岸本 祐之



移住支援員
ばば かずお
馬場 和男



移住支援員
はしもと みな
橋本 美奈



移住支援員
とぐち まなぶ
戸口 学



移住支援員
やすだ まさみ
保田 真美

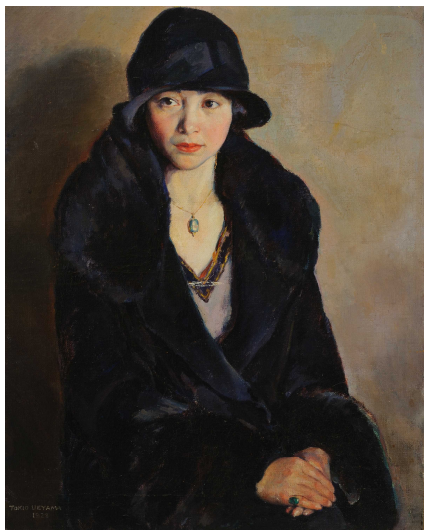
"新しいふるさと探し"を
お手伝いします！

●第2回和歌山県人会世界大会特別事業「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」展を開催中です

県政トピックスでもお伝えした「第2回和歌山県人会世界大会」の開催にあわせて、県立近代美術館では特別事業「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」展を開催中です。

本県は、海外への移住者数全国第6位であり、「移民県」として知られています。明治時代より新天地における仕事を求め、太平洋を渡った人々の子孫は、今も各地で暮らしています。本展覧会では、近代美術館が培ってきた戦前の渡米美術家研究を更に広げ、本県の移民の歴史と重ねて御紹介します。

本展覧会の中心となるのは、アメリカ西海岸で美術を志した人々の活動です。特にカリフォルニアでは、移民という立場で海を渡った人たちが多く暮らし、そこで活発な芸術活動が生まれました。中でも、



上山鳥城男《黒衣の肖像(上山夫人)》
1928年 油彩、キャンバス 個人蔵

現在の和歌山県有田川町出身の画家上山鳥城男（1889-1954）を、和歌山ゆかりの作家として新たに御紹介し、併せて彼の周囲の多様な芸術の営みを、初公開の作品や資料と共に展示します。

また、西海岸は日米開戦に伴って日系人が強制収容された歴史をも背負っています。しかし鉄条網に囲まれた収容生活の中でも、人々は様々に創造的な活動を行い、拠り所としていました。本展覧会では、全米日系人博物館や諸機関と連携しながら、移民と美術についての歴史を双方向から見直し、発信することを目指します。皆さん是非、お越しくください。



ヘンリー杉本《最後の決断》
1943年 油彩、キャンバス
和歌山市立博物館蔵 Courtesy
of Madeleine Sugimoto

<開催概要>

会 期 2023年9月30日（土）～ 2023年11月30日（木）
開館時間 9時30分～17時（*入場は16時30分まで）
休館日 毎週月曜日
入館料 一般800円(640円)・大学生500円(400円) *（ ）内は20名以上の団体料金

*高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の留学生は無料
*11月25日（土）は「紀陽文化財団の日」（第4土曜日）により大学生無料
*11月18日（土）、11月19日（日）は、「関西文化の日」により無料
*11月22日（水）は、「ふるさと誕生日」により無料

● 「生誕 850 年記念特別展 紀州・明恵上人伝」を開催中です

県立博物館では、「生誕 850 年記念特別展 紀州・明恵上人伝」を開催中です。

承安 3（1173）年、紀伊国有田の地に、湯浅党の祖・湯浅宗重^{むねしげ}を祖父として、明恵上人は生まれました。神護寺や東大寺で教学を極め、梅尾高山寺を華嚴の道場として再興したことで知られる明恵上人は、鎌倉の乱世に翻弄されながらも、一心に釈迦を想い、一族のために祈り、厳しい修行を重ねまし



和歌山県指定文化財 明恵上人坐像
（施無畏寺蔵）

た。志をかたくして右耳を切断し文殊菩薩が現れるのをみた“白上峰”^{いまだち}、“筏立”^{いまだち}でみた夢には十六羅漢が現れ、“糸野”の館を提供した湯浅宗光夫妻の願いにより善知識曼荼羅^{ぜんちしきまんだら}を描かせると化鳥が舞い、春日明神は“星尾”の地でインドへの渡航を止めるようお告げをします。



重要文化財 仏涅槃図
（浄教寺蔵）

このように数々の奇端の舞台は紀州にあり、明恵の没後、弟子の喜海^{きかい}は上人の行状記^{ぎょうじょうき}をまとめ、紀州での日々を支えた湯浅一族と共に「明恵上人紀州八所遺跡（国指定史跡）」を定めました。

本展では、生前の明恵の足跡をたどりつつ、故郷を舞台に生まれた伝説、花開くゆかりの美術や芸能を通して、今日まで続く明恵讃仰^{さんごう}の歴史を紐解きます。

＜開催概要＞

会 期 2023年10月14日（土）～ 2023年11月26日（日）

開館時間 9時30分～17時（*入場は16時30分まで）

休 館 日 毎週月曜日

入 館 料 一般830円(680円)・大学生520円(410円) *（ ）内は20名以上の団体料金

*高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の留学生は無料

*11月18日（土）、11月19日（日）は、「関西文化の日」により無料

*11月22日（水）は、「ふるさと誕生日」により無料

*第1日曜日は有料

●令和5年度秋期特別展「律令国家成立前夜」を開催中です

県立紀伊風土記の丘では、秋期特別展「律令国家成立前夜」を開催中です。

古墳時代から飛鳥時代へと移り変わる6世紀から7世紀は、古墳時代の大王中心の首長連合から、天皇中心の中央集権的な律令国家へと移行する時期とされます。この時期には、前方後円墳の築造が終わり、古代寺院の建立

が始まるなど、社会の体制が大きく変化しましたが、こうした変化は大王(天皇)を中心とする畿内の中央政権によって推進され、急速に地方へ広がりました。



上野廃寺 軒丸瓦・軒平瓦
(和歌山県教育委員会蔵)



岩内1号墳 銀装大刀【和歌山県指定文化財】
(御坊市教育委員会蔵)

紀伊では、古墳群や集落の動向から『古事記』『日本書紀』に登場する紀^{きうじ/きし}氏により地域経営が行われたとされます。一方、屯倉^{みやげ}の設置記事や南海道沿いの古代寺院の建立など、中央政権の影響を示す資料や遺跡も多く見つかっています。

本特別展では、6世紀から7世紀の畿内の中央政権の動向を示す考古資料や、この時期の紀伊の古墳や古代寺院の出土品を通じて、古墳時代の首長連合から古代の律令国家へ向かう社会変化と紀伊の古代社会の成立に与えた影響について御紹介します。皆さん、是非御覧ください。



鳴滝1号墳 単鳳環頭大刀柄頭
(和歌山県教育委員会蔵)

＜開催概要＞

会 期 2023年9月30日(土)～2023年12月3日(土)

開館時間 9時30分～16時30分(*入場は16時まで)

休 館 日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)

入 館 料 一般360円(290円)・大学生220円(160円) * ()内は20名以上の団体料金

*高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の留学生は無料

*無料開放の日：11月1日(水)、11月18日(土)、19日(日)、22日(水)

●タウンミーティングの開催状況について（7月～9月）

県民が笑顔になる和歌山を築くため、知事が直接県民の声を聴き、その思いを活かした県政を共につくることを目的に、地域で様々な活動をされている方々と意見交換を行っています。

開催日	開催時間	開催地	概要等
7月7日	14:15 ～ 15:15	紀の川市	農業振興、サイクリング振興、災害対策、中小企業振興、移住・定住推進について意見交換 
7月9日	10:15 ～ 11:15	太地町	子供の福祉学習、観光振興、自動運転の取組等について意見交換 
	15:30 ～ 16:30	那智勝浦町	観光や農林水産業の振興、環境問題、LGBTQ等について意見交換 
7月10日	14:00 ～ 15:00	美浜町	地域団体の活動、コロナ禍における子供の環境等、各団体の立場から現状、課題、取組、要望等について意見交換 
	15:30 ～ 16:30	日高町	農業振興の取組、移住者の新規事業等、各団体の立場から現状、取組、課題、要望等について意見交換 
7月13日	10:00 ～ 11:30	高野町	移住定住、地域公共交通、観光振興、脱炭素エネルギー等について意見交換 
8月28日	14:15 ～ 15:15	白浜町	観光や地域交通の現状と課題等について意見交換 
9月13日	15:00 ～ 16:00	古座川町	観光振興や移住支援等について意見交換 

■これまでのタウンミーティングで皆さんから頂いた主な御意見

主な御意見	対応状況等
林業への就業や定着には所得の向上が必要で、そのために木材の価格を上げるような施策などの支援をお願いしたい。	令和5年8月から、木材価格の向上等を目的として木材の需給情報をリアルタイムで共有できる機能を備えた森林クラウドシステムの運用を開始した。
観光について、カーナビがその地域の細かい方の道を指示することがあるので、何か対策をしてほしい。	関係機関に推奨ルートの変更を要望済。また、案内表示等を順次整備中。

●「企業版ふるさと納税」で和歌山県の取組を応援しませんか？

企業版ふるさと納税とは、企業の皆様が寄附を通じて地方公共団体の地方創生プロジェクトを応援した場合に、税制上の優遇措置が受けられるほか、様々なメリットがある仕組みです。

和歌山県では、この制度を活用し県の地方創生の取組を応援していただける企業の皆様を募集しています。

企業版ふるさと納税とは

- 「企業版ふるさと納税」は、国が認定した地域再生計画に位置付けられる**地方公共団体の「地方創生プロジェクト」**(*)を応援するために企業様が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。
*和歌山県の「地方創生プロジェクト」(2023年度)は次ページに掲載しています。
- 損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)を含め、最大で**寄附額の約9割にあたる法人関係税が軽減**され、実質的な企業様の負担が約1割まで圧縮されます。

【税軽減のイメージ】



- *本制度を活用できるのは、**和歌山県外**に本社がある企業様のみです。
- *1回当たり**10万円以上**の寄附が対象です。
- *寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

企業様のメリットについて

- 社会貢献に取り組む企業としての**PR効果**が期待できます！
- 企業様と県との間で、**新たなパートナーシップ構築**の可能性が広がります！
- 県をはじめ、地方創生プロジェクトに関わる多様な主体との新たな関係構築の可能性が広がります！

2023年度和歌山県のプロジェクト一覧

成長志向創業者の育成・支援による地方創生

(概要)

「起業家が起業家を生み育てる」をコンセプトに、成功した起業家が次の起業家を育成・支援

(事業年度)

2022年度～2024年度

大阪・関西万博を見据えた
「新たな旅のスタイル」普及・促進

(概要)

デジタル・アウトドアを主眼にした「新たな旅のスタイル」の普及・促進

(事業年度)

2022年度～2024年度

ポストコロナ時代の若者就職支援による
県内定着・移住促進

(概要)

高卒就職者の県内定着や大学生・第二新卒者等のUターン就職による本県への移住を促進

(事業年度)

2022年度～2024年度



わかやま地域の賑わい総合対策プロジェクト

(概要)

ワーケーションの受け入れ強化や、多様なニーズに応じた移住・定住に取り組む

(事業年度)

2020年度～2024年度

最南端から最先端へ！民間ロケット発射場を
核とした地方創生プロジェクト

(概要)

ロケットの打上げ応援イベントの実施や企業と連携したプログラミング教育による高度人材の育成

(事業年度)

2022年度～2024年度

明日へつなく持続可能な農林漁業の実現に
向けた好循環創出プロジェクト

(概要)

地域の魚介類、ジビエを地域で消費・利益を還流させる生産と消費の好循環を創出し、農林漁業と地域の持続可能性を高める

(事業年度)

2023年度～2024年度



教育旅行向けほんまもん体験事業者等支援

(概要)

体験型観光事業者の受入体制の強化、安全施策等に資する設備・備品の設置や県外学校等に対する誘客・持続可能な受入環境整備の促進

(事業年度)

2023年度～2024年度



和歌山県まち・ひと・しごと創生推進計画

(概要)

ひとを育む事業・しごとを創る事業・いのちを守る事業・くらしやすさを高める事業・地域を創る事業の実施により、和歌山県の課題改善に取り組む

(事業年度)

2022年度～2024年度



詳細はこちらから

⇒<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020200/d00204504.html>

お問い合わせ先：和歌山県 企画部 地域振興局 地域政策課 企画振興班

TEL：073-441-2371



●ふるさと和歌山応援寄附（ふるさと納税）の御案内

ふるさと和歌山応援寄附は、「ふるさと和歌山を大切にしたい」、「和歌山を応援したい」という思いを具体化するための制度です。これまで多くの御寄附と力強い応援メッセージを頂いております。

県では、ふるさと和歌山応援寄附を「世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の保全や活用」や「子育て支援の充実」、「がん対策の充実」などの分野で活用させていただいております。

御寄附につきましては、申出からクレジット決済等までを同時に行うことが可能なふるさと納税総合サイトを御利用ください。

また、和歌山県外にお住まいで1万円以上の御寄附を頂いた方には、和歌山県優良県産品（プレミアム和歌山）として県が認定した商品等のうち、事業者の協力を得て選定した返礼品の中から1品をお選びいただけます。和歌山県が誇る優良産品を是非御堪能ください。

ふるさと和歌山応援寄附についての詳細は、和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」に掲載しています。

これからも、ふるさと和歌山応援寄附に御協力いただきますようお願い申し上げます。

ふるさと和歌山応援サイト(和歌山県へのふるさと納税)

「ふるさと」と聞いてみなさんが想像するものは何でしょう。
和歌山県では、「元気な和歌山」を創造していくため、さまざまな施策の推進に取り組んでいます。
ぜひ、皆様も寄附を通じてふるさと和歌山を応援してください。



ふるさと和歌山応援サイト

検索

各ポータルサイトのQRコードはこちら



ふるさとチョイス



ふるなび



ANAのふるさと納税



ふるラボ



JALふるさと納税



さとふる

★お問合せ・申込窓口★

〒640-8585

和歌山市小松原通一丁目1番地

総務部総務管理局税務課

担当 大亦、池田、高松、小弓場

電話 073-441-2186(直通)

FAX 073-423-1192

E-mail: furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

★お問合せ窓口★

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館12階

和歌山県東京事務所

担当 西中

電話 03-5212-9057

FAX 03-5212-9059

●ふるさと和歌山応援寄附を活用して行う県の取組

- ①生涯スポーツ・文化の振興
- ②子供たちの教育環境の充実
- ③がん対策の充実
- ④犬・猫の殺処分ゼロを目指す活動への支援
- ⑤世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全や活用
- ⑥南紀熊野ジオパークの推進
- ⑦地元企業への就職を促進する奨学金返還支援
- ⑧学校図書館や県立図書館の蔵書の充実
- ⑨わかやまの美しい海づくり
- ⑩わかやまの文化財の保護
- ⑪大切なふるさとの森を守り育てる
- ⑫わかやまのナショナル・トラスト
- ⑬わかやまの農林水産業の振興
- ⑭子育て支援の充実



皆さまからいただいた寄附金の成果につきましては、「ふるさと和歌山応援サイト」などで報告させていただきます。

■寄附金控除の手続きについて（ワンストップ特例申請のご案内）

地方公共団体への寄附（ふるさと納税）については、税制上の優遇措置があります。寄附金額のうち、自己負担額の2,000円を超える部分について、一定限度額まで、原則として所得税（復興特別所得税を含む）及び個人住民税から全額が控除されます。

寄附金控除を受けるには、所得税の確定申告又はふるさと納税ワンストップ特例制度の申請が必要です。

* ワンストップ特例申請の場合は、所得税の軽減相当額を含め、個人住民税からまとめて軽減を受けることになります。

和歌山県では、ワンストップ特例申請の手続きを、より簡単・便利に行えるよう完全オンラインでのサービスを提供しています！

マイナンバーカードをお持ちの方は、紙のワンストップ特例申請書・確認書類の提出は不要となり、「自治体マイページ」から即座に申請を完結させることが可能です。

- * 申請にはデジタル庁提供のマイナポータルアプリが必要です。
- * 自治体マイページとは、ふるさと和歌山応援寄附に寄附したふるさと納税に関する情報を一元管理できる寄附者個人の専用ページです。
(自治体マイページは、株式会社シフトセブンコンサルティングが提供するサービスです。)



寄附金控除の手続きやオンラインワンストップ特例の詳細については、「ふるさと和歌山応援サイト」内「寄附金税制について」のページをご確認ください。



イベント情報（11月上旬～2024年1月下旬）

*最新の情報は、各主催者へお問い合わせください。

開催日・時期	行事名	場所	問い合わせ先
11月3日 4日	和歌山城まちなかキャン ドルイルミネーション・ 竹燈夜	和歌山城と その周辺 (和歌山市)	竹燈夜実行委員会事務局 073-435-1234
11月上旬	紀州漆器まつり	黒江川端通り (海南市)	紀州漆器まつり実行委員会 073-482-0322
11月中旬	紅葉祭	熊野那智大社 (那智勝浦町)	熊野那智大社 0735-55-0321
11月26日	八咫の火祭り	熊野本宮大社 (田辺市)	八咫の火祭り実行委員会 0735-42-0735
12月上旬	ねんねこ祭り 「朝日遥拝行列」	木葉神社 (串本町)	木葉神社 0735-62-0470
12月17日	和歌浦ジャズマラソン	和歌山マリー ナシティ (和歌山市)	和歌浦ジャズマラソン 実行委員会 073-435-1364
12月中旬	しまい観音 厄除開運大根炊き	紀三井寺 (和歌山市)	紀三井寺 073-444-1002
12月下旬	大松明押し	下花園神社 (かつらぎ町)	かつらぎ町観光協会 0737-22-0300
1月上旬	初詣初笑い神事	丹生神社 (日高川町)	日高川町観光協会 0738-22-2041
	奥之院・金堂修正会	奥之院 燈籠堂 壇上伽藍 金堂 (高野町)	総本山金剛峯寺 0736-56-2011
1月中旬	仙人風呂 「新春かるた大会」	川湯温泉仙人風呂 (田辺市)	熊野本宮観光協会 0735-42-0735
1月下旬	本州最南端の火祭り 望楼の芝焼き	潮岬 (串本町)	串本町観光協会 0735-62-3171

自然・風物情報（11月上旬～2024年1月下旬）

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
11月上旬	有田みかん出荷始まる	JA ありだ (有田市)	JA ありだ 0737-53-2311
	ジャバラ収穫始まる	北山村	北山村観光協会 0735-49-2324
	串柿づくり最盛期	四郷地区 (かつらぎ町)	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
11月中旬	布引だいこん出荷最盛期	和歌山市布引	海草振興局 農業水産振興課 073-441-3378
	福定の大銀杏見頃	田辺市中辺路町	中辺路観光協会 0739-64-1470
11月下旬	白良浜 防砂ネットで冬支度	白良浜海水浴場 (白浜町)	白浜町 0739-43-5555
	紅葉見頃（県内各所）	紅葉溪庭園 (和歌山市) 奇絶峡、発心門王子 (田辺市) 瀨峡 (新宮市)	和歌山城整備企画課 073-435-1044 田辺観光協会 0739-26-9929 熊野本宮観光協会 0735-42-0735 熊野交通(株) 0735-22-6220
12月上旬	センリョウの収穫	真妻地区 (印南町)	印南町役場産業課 0739-42-1737
12月下旬	ツキノワグマ「ベニー」 仕事納め（冬眠）	和歌山城公園 (和歌山市)	和歌山城整備企画課 073-435-1044
1月上旬	新春初泳ぎ	田辺扇ヶ浜海水浴場 (田辺市)	田辺観光協会 0739-26-9929
1月中旬	ポンカンの収穫ピーク	重畳山地区 (串本町)	JA 紀南 0739-23-3450
1月下旬	スイセン見頃	樫野崎灯台周辺 (串本町) 白崎海岸 (由良町)	串本町観光協会 0735-62-3171 由良町産業建設課 0738-65-1203

～編集後記～

長い夏がようやく終わったと思ったら、朝晩は冷え込み、昼間は夏日という一日の寒暖差が大きい日が続いていましたが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

和歌山県では、本号でお伝えしたとおり、10月5日から8日にかけて第2回和歌山県人会世界大会を開催し、最終日の記念式典やレセプションは大いに盛り上がりました。

さて、私の出身の日高地方では、10月は秋祭り一色です。2日の印南祭を皮切りに、最大の御坊祭へと続き、それ以降は毎週日曜日、各地の神社で秋祭りが行われます。みなさまのふるさとはいかがでしょうか。

日高地方の祭りに特有のものとして、四つ太鼓があります。四つ太鼓とは、粹組に長サイ棒と呼ぶ担ぎ棒を付け、欄間を配し四本柱に障子と呼ぶ格天井を乗せ、それに天幕を被せ、中に据えた太鼓を陣羽織に隈取化粧の四人の乗り子が叩き、それを若衆が押す、いわゆる太鼓台の一種です。（出典：御坊市HPなど）

四つ太鼓が祭りの出し物として成り立つには、4人の乗り子（小学生）と30人以上の若衆が必要なのですが、ここでも、少子高齢化の波が直撃し、乗り子、若衆がともに集まらず、四つ太鼓が出せない地域が増えてきています。四つ太鼓だけでなく他の出し物も無く神事のみとなったり、祭りそのものがなくなったりした地域もあります。笛や太鼓の音が聞こえると、心が躍り、血が騒いでいた私の少年時代のころの賑やかさを懐かしく思うと同時に、そのような賑やかさが戻ってくるのがもうないのかと切なくなります。

今回の編集後記は秋の夕暮れのように何とももの寂しい話となってしまいましたが、冬ももうそこまで迫ってきています。皆様、くれぐれもご自愛ください。

最後まで御覧いただき、ありがとうございました。

知事室 秘書課長 津井田 一陽



★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんでいただけますので、是非ご覧ください。

和歌山だよりに対する御意見・御感想をお聞かせください。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報を御提供ください。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等をお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp



県ホームページ
QRコード



ふるさと和歌山
応援サイト QRコード

2023年（令和5年） NO.180

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2026

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。

